

STOP! THE ハッ場ダムニュース



—やんば—
IN埼玉

No.36 2012. 11.23

●ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会・代表 藤永知子●

関東地方整備局は河川整備計画策定の基本ルールを遵守せよ！

支川を含めた利根川水系全体の計画策定を求める

ハッ場ダム建設を前提とする利根川の河川整備計画の策定が急ピッチで進められようとしている。利根川水系の河川整備計画の策定がハッ場ダム本体工事費の予算執行の条件になっていることから、関東地方整備局は今年度中の整備計画の策定を目論んでいる。4年4ヶ月ぶりに再開された利根川・江戸川有識者会議は、3名の委員が新たに加えられ、18名から21名になり、ダム懐疑派の委員2名の参加によって活発な議論が繰り広げられることになった。しかし、会議は国交省の事務局主導によるもので、日程には余裕がなく10日に1回という強行日程で3回開催されたため、委員の出席率は低い。しかも、委員への開催期日の連絡や資料の送付も遅れ、委員軽視の運営がされている。

河川整備計画は本川、支川を含めた水系全体で策定しなければならない。それが整備計画策定の基本ルールである。利根川は多くの支川があるので、4年前の策定作業では、本川と支川を含め五つのブロック（利根川・江戸川、鬼怒川・小貝川、霞ヶ浦、渡良瀬川、中川・綾瀬川）に分け、それぞれに有識者会議を設置した。

ところが、今回、関東地方整備局はこの基本ルールを無視して、本川関係を対象とする利根川・江戸川有識者会議のみで終わらせようとしている。「ハッ場ダムを考える1都5県議会議員の会」と「ハッ場あしたの会」は、国交省に整備計画策定の基本ルールを遵守するよう緊急に国会議員に働きかけた。（10月23日）

また、10月19日の東京新聞特報部は、カスリーン台風洪水の利根川上流の氾濫図は偽りであることを報じた。高台にある高崎市役所周辺も氾濫したことになっている。ハッ場ダム建設の前提となる治水目標流量、毎秒17000m³（八斗島）はこの氾濫図が間接的な裏付けになっており、それが偽りであることは、治水目標流量は科学的な根拠がない机上の計算値でしかないことを意味する。関東地方整備局はハッ場ダム建設推進のために捏造を行ったといわれても仕方がない。流域住民の安全を真に守る利根川水系の河川整備計画について議論が尽くされたならば、利根川の治水対策にハッ場ダム建設が最も有効であるという結論にならないはずである。司法の場も最終段階を迎えており、私たちはハッ場ダム建設中止に向けて、力を結集していかなければならない。 **ストップハッ場ダム住民訴訟8周年報告集会（12月9日（日）**

13時～17時 全水道会館4階大会議室）へご参集を！

（大高文子）

ハッ場ダム 埼玉訴訟

野本夏生

ハッ場ダム埼玉訴訟は、10月17日水曜日午後1時30分から、東京高等裁判所において控訴審の6回目の進行協議が行われました。この進行協議では、埼玉県（被控訴人）側から、主に利水問題についての反論を内容とする準備書面が提出されました。

利水については、埼玉県が行った水需要予測が、果たして科学的な根拠に基づいた合理的な予測と言えるのかが最大の争点になっています。私たちは、平成15年、平成18年に県が行った水需要予測がいずれもその後の実績値と大きく乖離していること、有収率・負荷率といった予測に用いる係数が適切な値になっていないこと等を指摘して、予測が科学的根拠を欠いた不合理なものであることを明らかにしてきました。これに対し、埼玉県（被控訴人）側の今回の書面は、実績値との乖離についてはほとんど触れずに、“水道水の安定的な供給の観点”から係数は「安全側に設定」することが必要であるとか、他の地域ではより厳格な係数を用いているとしても“埼玉県という地域の特殊性”を考えれば不適切な設定をしているとは言えないという弁解に終始したものになっています。書面は、ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会のHPにアップされていますので、詳しくはそちらをご覧ください。

次回の進行協議は12月21日の午後4時30分から東京高等裁判所で行われる予定になっています。この日、午後1時30分からは、同じ東京高等裁判所で、ハッ場ダム東京訴訟の口頭弁論期日が開かれます。先行して審理が進められている東京訴訟は大詰めを迎えており、いつ結審となってもおかしくない状況となっています。12月21日の埼玉訴訟、東京訴訟にぜひ注目してください。

■裁判の日程■

- 茨城 11月20日（火） 午後 3時30分 東京高裁 第10民事部（進行協議）
- 東京 12月21日（金） 午後1時30分 東京高裁 第5民事部（口頭弁論）101号法廷
- 埼玉 12月21日（金） 午後 4時30分 東京高裁 第24民事部（進行協議）
- 栃木 2013年1月21日（月） 午後3時 東京高裁 第4民事部（弁論準備）
- 群馬 2013年1月22日（火） 午後2時30分 東京高裁 第11民事部（進行協議）
- 千葉 2013年 1月25日（金） 午前11時 東京高裁 第22民事部（進行協議）
- 栃木 2013年 3月11日（月） 午後1時10分 東京高裁 第4民事部（弁論準備）
- 栃木 2013年5月16日（木） 午後 3時 東京高裁 第4民事部（弁論準備）

ほんとうに造っていいですか？ ハッ場ダム

—「ダム湛水による危険性」と「水没する貴重な遺跡」—

9/22
シンポジウム
報告

所沢市 河登一郎

今回のシンポジウムは、今まで主として取り上げてきた治水面、利水面からではなく、「ダム湛水による危険性」と「水没する貴重な遺跡」を取り上げました。遺跡問題は初めてのテーマなのでこちらから報告します。

1. 水没する貴重な遺跡：

- (1) 皆さまは、ハッ場ダム水没予定地及び周辺地域が埋蔵文化財の宝庫だということをご存知ですか？
- (2) そうなのです。古代から水と緑に恵まれ交通の要衝だったダム予定地周辺には、想像以上の文化財が埋もれているのです。特に注目されているのが豊かな縄文時代の住居跡だけで数ヵ所数百軒の遺蹟、平安時代、中世、及び江戸中期には1783年天明の浅間山大噴火で発生した泥流で瞬時に埋もれた東宮遺蹟で、当時の意外に豊かな生活の跡がタイムカプセルのように現れたのです。ゲタ・キセル・マユ・麻・酒造所跡など。
- (3) 現在まで全部で77ヶ所の遺蹟が確認され、さらに増える可能性が大きいそうです。
- (4) 埋蔵文化財は、発掘調査が終われば埋戻して開発されるケースが多いようですが、特に重要な文化遺産と認定された場合や、世界文化遺産に登録されればダムの建設自体がストップする可能性も残っています。
- (5) 問題は開発事業者が国交省であり、文化財保護を管轄する文化庁の影が薄いのです。埋蔵文化財保護法の規定で最低限の調査は実施されますが、予算不足のために調査費減額、調査対象地縮小の方向で開発が文化に優先する恐れがあります。現に調査対象地域は当初見込みの57万㎡→110万㎡→136万㎡と拡大し、必要経費も66億円→98億円→130億円と増額要望されていますが、国交省は「遺跡のランク付け（＝対象地域縮小）」「調査費は98億円」止まり、と主張しています。

想像以上の広がりがある遺跡の発掘調査には時間がかかることも国交省が消極的である理由の一つでしょう。

文化庁が毎年日本各地で、発掘中の注目すべき遺跡を展示している「列島展」への本件展示を国交省が未だに了承していないことも、その事情を良く表しています。

- (6) シンポジウムのスピーカーの先生方からの発言のポイント：

慶応大学川村名誉教授：

○文化財は開発の犠牲にされてきたが、21世紀は環境の世紀。流れを変えよう。

○奈良での開発に関して「万葉では飯は食えぬ」対「飯を食う以外の人生の価値あり」の論争があり、最終的には保護派が勝った。

○観光資源としてもダムより埋蔵文化財の方が比較にならぬほど魅力的

考古学者勅使河原彰氏：

- 個々の遺蹟も重要だが、当時の生活全体が残っている全体像が遺蹟として重要
- 開発のワスレモノだった文化財を国は守る義務がある。
- 遺跡を残すのも公共事業である。

森まゆみ（作家：東京の遺蹟をいろいろな形で守ってきた；「谷根千」編集者）：

- 文化財は将来世代の財産。○吉野ヶ里は工業団地としてスタートしたが貴重な文化財として残った、三内丸山も最初は野球場にする予定だった。

2. ダム湛水による危険性：

- (1) 以前から多くの学者や専門家から強く指摘されてきたことですが、ダム予定地周辺は浸食・隆起・溶岩・熱水変質などいろいろな地質や岩石層が複雑に入り組んでおり、特に浅間山爆発で流出した溶岩の脆い層や割れ目が多く分布しています。
- (2) 周辺の関連工事が進むにつれて、その懸念が現実起こっています。脆弱な地質が原因で地滑り、岩盤の崩れなどが多発しあちこちで補強工事が行われています。昨年8月には大雨による土砂崩れで、大量の土砂と泥水が流出し、川原湯温泉駅の構内まで押し寄せてきました。
- (3) 打越代替地の一部では異常に高い盛土で造成したので、地下水や地震による地滑りが特に懸念されています。
- (4) 最も懸念されるのは、ダム完成後水がたまとダム周辺に浮力が働いて大量の地すべりが想定されることです。そんなことは国交省にも分かっているはずですが本気で対応しないのは以下のような理由によるものと思われます。
 - ① 予算の逼迫：当初予算 2,110 億円が平成 16 年に 4,600 億円へ大幅増額された際、資金の一部を負担する下流都県がこれ以上の増額は認めないと条件つけたため（現実には今後数百億円の増額は不可避）、予算を極力削っていること；
 - ② 万一、将来事故が発生しても、国交省としては「想定外」として誰も責任をとらないで済む仕組みであること：（福島原発であれだけの大事故を起こしながら、原発推進及び保安監督官庁である経産省関係者で責任をとった人はいません！）

3. 今後の運動に活かせるか：

- (1) 湛水による危険性に関しては従来からの主張が補強されると思います。
- (2) 遺蹟保存は新しいテーマです。準備書面では「環境」に関する主張を補強することになるでしょう。
- (3) 「ダム工事差止訴訟」とは別の形での訴訟提起も検討されるようです。日本中には開発が優先された事例も多い反面、吉野ヶ里、三内丸山、奈良県の多くの遺蹟のように文化財が優先されたケースもあります。多面的な新しい運動の展開が必要です。
- (4) ダムが止まり、豊かな縄文遺跡から弥生、平安、中世/武田信玄や真田幸村の時代を経て、江戸時代の生活や産業のタイムカプセルに至る、時代と広がり多様性を兼ね備えた豊かな遺跡群が、ダムとは比較にならないほど魅力的な観光資源として地元還元されれば素晴らしいですね。

報告 「“あぶない”堤防の現場を歩く見学会」

大高文子

去る7月22日、「利根川流域市民委員会」主催の利根川中流域の堤防見学に参加しました。利根川の治水基準点の八斗島（やったじま）から、江戸川との分岐点の関宿（せきやど）まで、右岸や左岸の堤防の状況を見て歩くバスツアーです。国交省関東地方整備局は、ハッ場ダムの費用便益比計算では利根川中流部を氾濫ブロックA、B、Eに分けてそれぞれ破堤地点を想定しています。これは堤防決壊の危険性と被害額を強調し、ハッ場ダムを位置づけようとするものです。主な見学地点の様子を報告します。

【右岸158km地点】スライドダウン評価堤防——

日本最初の公認女性医師で知られる荻野吟子記念館の脇から堤防に上がると、福川との合流点があり、逆流を防ぐ水門も見えます。このあたりの右岸157km地点と左岸152km地点は、利根川で最も流下能力が小さいとされ、堤防高が最も低いと評価されています。しかし、実際は堤防の高さは確保されているが、堤防の幅が不足しているということで、スライドダウンという評価手法で堤防の有効率を低く評価し、堤防高が低いことになっています。ここは国交省の計算では30年に1回の洪水でハッ場ダムがあっても破堤すると想定されている地点ですが、堤防は実際にそんなに低くありません。



【右岸139km地点】破堤の危険性のある堤防——

平成13年9月洪水で堤防の漏水が発生した加須市大越です。埼玉県知事が当時の漏水状況を示す写真を示して、漏水対策にハッ場ダムが必要と云っている地点です。しかし、実際には既に鋼矢板や遮水シートによる基盤地盤漏水防止とコンクリートブロックによる護岸工事が1kmの区間で行われており、知事の話は現実と遊離したものである事がわかりました。国交省の調査によると、利根川・江戸川は洪水時に浸透による破堤の危険性がある堤防は6割に及んでいますが、その対策は堤防の強化で対応するしかなく、ハッ場ダムに効果を求めるのは筋違いです。

【右岸134km地点】首都圏氾濫区域堤防強化事業

昭和22年のカスリーン台風で決壊した地点ですが、今では広いスパー堤防になっており、様々なモニュメントがつくられ、破堤とは無縁になり「大利根河川防災ステーション」が建設されました。その上流の右岸136km地点は、現在、カスリーン台風が再来したら、決壊して34兆円の被害が生じるとされているところです。しかし、平成30年度までに「首都圏氾濫区域堤防強化対策事業」によって、堤防の大幅な増強が行われる予定の看板がありました。計算上では、1/100～1/200洪水が来ると、この事業の完了後も破堤すると想定されていますが、堤防の大幅な増強が行われている現場を見ると、ここで破堤するという現実性は全く感じられません。

国交省が破堤すると想定し、甚大な被害が生じるという地点の堤防を主に見学しましたが、これらはハッ場ダムが必要だという話を作り上げるための机上の計算に過ぎないことを確信しました。

流域面積の広い利根川の治水対策は、治水効果が希薄なハッ場ダムではなく、それぞれの場所で流域住民の生命や財産を真に守る対策が選択されなければなりません。

ハッ場ダム本体工事着工のための 利根川・河川整備計画策定の動き

嶋津暉之（ハッ場あしたの会運営委員・利根川流域市民委員会共同代表）

■ 国交省が考えるハッ場ダム本体工事着工のための日程

国交省関東地方整備局はハッ場ダム本体工事の予算執行の条件となっている利根川水系河川整備計画の策定に向けて、9月下旬から10月中旬まで利根川・江戸川有識者会議を急ピッチで開催しました。関東地方整備局が目論んだ今後のスケジュールは次のようなものであると推測されます。ただし、これは民主党政権下での目論見です。12月16日に総選挙が急きょ行われることになりましたので、国交省は新政権下で別の画策を行うことも予想され、ハッ場ダムを巡る先行きは不透明になっています。

- ① 今年中に利根川・江戸川有識者会議での河川整備計画案の審議を終える。
- ② そのあと、河川整備計画案について流域住民の意見を聴くパブリックコメントと公聴会を実施。
- ③ 所定の手続きを終えたとして、来年の早い時期に河川整備計画を策定。
- ④ 本体工事予算執行の条件をクリアしたとして、平成24度中にハッ場ダム本体工事入札を公告。

■ 利根川・江戸川有識者会議におけるダム懷疑派委員の追及

9月25日、10月4日、16日と立て続けに、利根川・江戸川有識者会議が開催されました。この会議を傍聴した市民が目当りにしたのは、有識者会議の審議が事務局（国交省関東地方整備局）の主導で行われ、事務局が委員の意見は聞きおくだけでよいと露骨な姿勢を見せる会議でした。しかし、有識者会議に大熊孝氏（本会の代表世話人）と関良基氏（本会会員）が新しく委員に加わったことにより^②、ダム懷疑派の委員から事務局案に対して科学的な疑問が提起されて白熱した議論が展開されるようになり、事務局の思惑通りには進まなくなっています。

〔注〕民主党の「ハッ場ダム等の地元住民の生活再建を考える議員連盟」の申し入れによる。

会議の当面のテーマは事務局案「利根川の治水安全度 1/70～1/80、治水目標流量 17,000 m³/秒（八斗島）」の是非ですが、この事務局案は科学的な裏付けがないだけでなく、そもそも河川整備計画の策定において目標流量の値を先に決めるのは誤りです。目標流量の達成に必要な施設計画と費用を見た上での実現性の有無、さらには環境への影響をも考慮して、目標流量の妥当な値を検討すべきです。ところが、事務局は昨年のハッ場ダムの検証で前提とした治水目標流量 17,000 m³/秒を先に決め、それによって、ハッ場ダムを必要とする河川整備計画を一気につくろうと考えています。

事務局案

「利根川の治水安全度 1/70～1/80、治水目標流量 17,000 m³/秒」は今年5月下旬から6月下旬にかけてパブリックコメントが行われたものです。有識者会議の配布資料で応募意見 93 通のうち、9 割以上が事務局案に反対であることが明らかになりましたが、関東地方整備局は形だけの回答を示しただけで、事務局案を全く変えようとしません。これでは何のためにパブコメを行ったのか、わかりません。ダム懷疑派 4 人の委員の追及で、防戦に立たされたからでしょうか、関東地方整備局は開催を予定していた 10 月 25

日、11月6日、11月15日の有識者会議を直前になって中止しました。しかし、11月にはあと1回、12月は3回の会議が予定されており、有識者会議の今後の成り行きは予断を許しません。

■ 関東地方整備局は本川だけの河川整備経過の策定を画策

現在の河川整備計画策定の進め方には根本的な問題があります。それは、利根川・江戸川という本川だけの河川整備計画を先に作ろうとしていることです。利根川には大きな支川がいくつもあり、それらの支川も含めて、河川整備計画を策定しなければなりません。支川と本川は相互に関係しており、特に支川の状況が本川に影響しますので、両者を切り離して河川整備計画を策定することは、科学的見地から見てあってはならないことです。2006年11月～2008年5月に行われた利根川水系河川整備計画の策定作業では（その後、理由不明のまま中断）、利根川水系を利根川・江戸川、支川の鬼怒川・小貝川、霞ヶ浦、渡良瀬川、中川・綾瀬川の五つのブロックに分け、それぞれに有識者会議を設置しました。今回も五つの有識者会議を開いて、それぞれ議論を進め、利根川水系全体の河川整備計画を策定するようにしなければならないにもかかわらず、関東地方整備局は本川関係を審議する利根川・江戸川有識者会議の開催だけで終わらせようとしています。支川も含めての整備計画をつくるとなると、内容の準備が間に合わず、手続きも長い期間を要することから、本川だけの整備計画だけでハッ場ダム本体工事着工の条件をクリアしようと画策していると考えられます。

■ 官房長官の裁定は水系全体の整備計画の策定を求めている

しかし、本川だけの整備計画では、官房長官裁定の条件をクリアしたことにはなりません。

昨年12月22日、ハッ場ダム本体工事費の予算案計上について藤村修官房長官が示した裁定は次のとおりでした。「現在作業中の利根川水系に関わる「河川整備計画」を早急に策定し、これに基づき基準点（八斗島）における「河川整備計画相当目標量」を検証する。」

官房長官の裁定が求めているのは、あくまで「利根川水系に関わる河川整備計画」、すなわち、利根川水系全体の河川整備計画の策定です。ところが、現在、開催されているのは上述のとおり、本川関係を審議する利根川・江戸川有識者会議だけです。本川だけの河川整備計画の策定では、官房長官裁定の条件をクリアしたことにはならないことは言うまでもありません。

このことについて、「ハッ場ダム等の地元住民の生活再建を考える議員連盟」の国会議員が政府に官房長官裁定の遵守を求めています。官房長官裁定を遵守するためには、現行の策定作業を中止して、基本から策定作業をやり直すことが必要です。そして、有識者会議で実りある審議が疎かにされれば、利根川河川整備計画の中身は関東地方整備局の思惑だけのものになり、現在及び未来の利根川流域住民の安全を本当に守る計画とは程遠いものになってしまいます。

有識者会議には毎回、大勢の市民が傍聴に参加して、審議の状況を見守り、ダム懐疑派の委員の発言にエールを送っています。お時間をとれる方は是非、有識者会議の傍聴に参加してください。そうすることが、関東地方整備局の思惑だけによる整備計画策定とハッ場ダム本体工事着工を阻止することにつながっていくと思います。

（あしたの会会報16号より転載）

利根川水系全体の河川整備計画の策定です。ところが、現在、開催されているのは上述のとおり、本川関係を審議する利根川・江戸川有識者会議だけです。本川だけの河川整備計画の策定では、官房長官裁定の条件をクリアしたことにはならないとは言うまでもありません。

このことについて、「ハッ場ダム等の地元住民の生活再建を考える議員連盟」の国会議員が政府に官房長官裁定の遵守を求めています。官房長官裁定を遵守するためには、現行の策定作業を中止して、基本から策定作業をやり直すことが必要です。

そして、有識者会議で実りある審議が疎かにされれば、利根川河川整備計画の中身は関東地方整備局の思惑だけのものになり、現在及び未来の利根川流域住民の安全を本当に守る計画とは程遠いものになってしまいます。

有識者会議には毎回、大勢の市民が傍聴に参加して、審議の状況を見守り、ダム懷疑派の委員の発言にエールを送っています。お時間をとれる方は是非、有識者会議の傍聴に参加してください。そうすることが、関東地方整備局の思惑だけによる整備計画策定とハッ場ダム本体工事着工を阻止することにつながっていくと思います。

(あしたの会会報 16 号より転載)

●最近の新聞報道より

●東京新聞 一面 2012年11月13日

大雨時の河川流出量



森林回復で4割減

ハッ場建設に影響も

東大研究所

森林機能が回復した土壌は、一部がはげ山の荒廃した時期に比べ、大雨が川に流れ出す量まで、四割程度減らすことが、中央大学環境学研究所・生田孝二教授の研究で分かっている。研究で分かっている。森林が雨水を浸透させて洪水を和らげる「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「緑のダム」効果が、実際の観測値を基に実証されたのは珍しい。

「ハッ場」推進 狙いか

国が作成したカスリーン台風洪水の八斗黒上流域の氾濫図



今回の利根川・江戸川両流域会議に示された犯跡図

利根川の洪水氾濫図、捏造

ハッ増多ム(増加無算野郎)の騒動をめし、国土交通省関東地方整備局が高崎市辺の利根川土流等の堤防決壊を説明するために作った沿道図に、大きな欠陥があることが明らかにされた。沿道図とされる山間部と高地、沿道の形勢は真偽が定まらない。本件體土を懸念した国土交通省は、速に現場を見える。(増増一)の現場を歩いた。(荒井六頁、〇面参照)

カスリーン台風 1947年9月13日から15
日にかけて、200年に1度の確率で起きる規
模とされる大雨をもたらした。総雨量は京
父で610^{mm}、鈴鹿川で538^{mm}、前橋で392^{mm}
で188^{mm}を記録。河川の氾濫や堤防の決壊などで
群馬で592人、栃木で352人、埼玉で86人、茨城・
千葉・東京で計1100人が死亡。家屋流出や倒壊は
3万戸近くを数えた。

「因縁」の「縁」は「縁起」の「縁」で、

たといふに、このま
で、水が上がつてきたら
大變だ。大げさすぎる」と
と驚いた。

社殿の裏手には地蔵。横
高は三百餘近くあり、六
八一年に建立された日本
最古級の石碑で、国の特
別史跡に指定されていま
も山頂を覆われている。
沼澤園では、その隣を
も取水に善き込まれたと
も述べた。

黒川沿いの左岸の目に
あたる高橋村吉松町地蔵

葛城山が南東に約
 八〇度、上野城跡山を駅跡の約
 一五〇度、安座と壬子の折
 で知られる山多八幡宮を約
 二〇〇度、あるには、肥後
 道にあたり、肥後地を約
 二五〇度に入れている。
 利根川は南北約一五〇度
 にある利根川支流の約
 と利根川に傾いた形にな
 っているが、豊後の山に
 向かつて高岳になつてい
 る。

大げますする
 国はでたらめ
 八幡宮の相違者は、社
 屋が逆水したために傾い

上川が考へ、高橋を会
わしむるやと磯崎が水につかたふりて、大急な被さずうに
かゝつて逃げ去る。

カヌーリノ風情(七)
八幡原より若松堤に至
る間、舟客は、是れ、洪水火
川の状況の變遷に見舞
ひに待つた。水は堤を越
えたるにはなく、もつと
に上流が、わづか、幾層
の繁茂してきて、そのま
じかに染つて居る。それ
様のものとならば、泳ぎ
者の喜ぶ人は、流れてい
く事を望んだため、川に
飛び込んだ。二、三羽り

下流へ

「因はたつたものだ。石
摩はあれてゐたが、左
岸は潰れてゐなくて、
水が濁つてゐない」と
おききし。

この二語を指標として、
た新開の大熊孝徳教
授（河川工学）による
と、△京市吉村氏は、
ほととぎす標水は正し
にたつた、標水の濁り
だつた。標水の濁りも
警備員は正しとしてゐ
てゐるが、床下標水の
濁りは標識でできたが、

調査すれば
分かるのに
ダム建設の促進は
ええ「ハツ」構出したらた
かに事業局の成功確
率は「現調調査をす
ば、犯罪者の地域を
してないところか、あ
分かるのに。国交省は
まかすたてに調査す
としない」と批判する
「監獄局はグリーン
風潮の計算を手で、

[illegible]

「うのふ芳々たたいぞが同寮に一の

高崎市街地も「水没」



47年洪水の氾濫図（70年作成）と今の国の有識者
会館に示された氾濫図を重ね合わせた地形図

[illegible][illegible]

予算執行へ必要」

[illegible][illegible]

国が作成した「冠層図」では、手前の
黒川から冠層し、高台にある高野神社
所（中央）やJR高野駅（奥）付近も
浸水したことになる。一帯は高野町
市で、本社へ「おおづる」から

藤村雄吉副市長が昨年暮れ示した「利根川本流の河川計画を策定」、建設の根拠としてきた証書を再検証する「ため」として、鑑定案を提出する必要がある。

鑑定案で言うのは、利根川の支流の渡良瀬川や中川などを含めた「利根川水系」だが、右両河川圏では「水系全体の維持」していない。

建設中止を訴える民主党は

「支流の整備計画」

【面】「ぜー、
る紋切の
実を得た
し！」と
かつ罵り
命を捨て
こんだ
を作った
一机士で
からでも
河川で
い、現
引正

聞は一見にしか
 然らずとも知てい
 り形の道標が真
 正で道令「厄
 丁」高橋市の高台
 川を眺めた。税
 バカを付けてなせ
 たのか。まづ今
 の立場「だ、今
 も進んでない。
 手から飛び出
 せ」(四) 漢

● 東京新聞特報部

2012年10月19日

ダム本体予算執行へ条件

川原の原田に約七、八立方分程
積た。
卒論なら
ゼロ点だ
十六日朝方、地獄の
なまこ雲が来て雨も降る。指
さす。この二、三立方分が

問題や問題点を明らかにして、ダム建設の根拠になさるハ斗湖の流量を全出してない。富樫は別の計算モデルで出している。旧富樫国に於いた部分ですべて、導水したわけでは無い。たゞれど導水した分は、はじき流りつた。 (1974, p. 144).

「水没」

正しいならば、警察廳の推計よりはるかに少なく、ハツ場ダム建設の前堤となる八斗地地点の最大前堤幅約二万一千立方メートルに達しない。

[illegible]

り下流のハナ川の
 量は前秒約二万一
 千に達する。東郷に
 至るとは水の最
 高一丈七、五立方
 尺、その量は四

10

-----ストップハッ場ダム 住民訴訟8周年報告集会-----

★テーマ「ねつ造してまでハッ場ダム?どうなる 利根川水系河川整備計画」

12月9日(日) 13:15~16:30 全水道会館 4階大会議室 参加費:500円

講演 「ムダな公共事業を止められるか?」 五十嵐敬喜さん(法政大学教授)

「利根川・江戸川有識者会議の欺瞞」 関良基さん(拓殖大学政経学部准教授)

「ハッ場ダム問題の経過と今後の展開」 嶋津暉之さん / 裁判報告、各都県からの報告など

★ハッ場あしたの会総会&記念シンポジウム-----

2013年1月12日(土) 13:30~16:30 北とぴあ スカイホール 14階(JR王子駅

北口徒歩2分) 参加費:800円

登壇者

・ 大熊孝さん(新潟大学名誉教授)・

川村晃生さん(慶応大学名誉教授)・椎名慎太郎さん(山梨学院大学名誉教授)・勅使河原彰

さん(文化財保存全国協議会)・堀内秀樹さん(江戸遺跡研究会)

★利根川流域市民委員会-----

2013年1月19日(土) 午後 全水道会館 4階大会議室

シンポジウム 内容:環境を中心とした利根川河川整備計画について



★埼玉の会総会予告-----

2013年3月8日 or 9日 午後 会場未定 活動の報告と方針 ハッ場をめぐる状況など

会費納入のお願い

いつもご支援下さり、ありがとうございます。

★当会の活動は、皆さんの会費とカンパで支えられています。度末になりましたが、まだの方は下記口座にご支援のほど、よろしくお願いします。

年会費:1口2000円(2012年1~12月)

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

便振替:00180-2-334064

編集後記

編集最中に解散・総選挙が決まりました。前回の民主党政権誕生・ハッ場ダム中止のマニフェストにどれだけの方が期待をしたことでしょうか。しかしながら、その後の経過はご存知の通り。今度の選挙では非常に困難な選択を迫られます。自民党に戻すのは論外としても、野田政権のような民主党ではご免ですし、維新の会の危うさも真っ平、既成の社民や共産もなかなか力にはなりえていません。候補の中から悪いほうから除いていく、という選択肢しかありませんが、少なくとも「ハッ場ダム中止」と「原発廃止」を掲げる候補がいてくれれば良いのですが。(O)

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

事務局;さいたま市浦和区北浦和5-15-41-221 大高方 Tel&fax;048-831-4891

★ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会 <http://yambasaitama.blog38.fc2.com/>

★ハッ場ダム訴訟 <http://yamba.sakura.ne.jp> ★ハッ場あしたの会 <http://www.yamba-net.org>